

事業年度	定員(人)			児童数(延人数)			充足率(%)		延長保育利用人数（延人数）				一時保育	園庭開放他
									30分延長	1時間延長	1.5時間延長	2時間延長	(延人数)	(延人数)
令和3年度	203 人	1号	15 人	196 人	1号	212 人	1号	118%	309 人	316 人	60 人	人	0 人	44 人
		2,3号	188 人		2,3号	2165 人	2,3号	96%						
事業計画	203 人	1号	15 人	196 人	1号	168 人	1号	93%	200 人	350 人	60 人	人	40 人	120 人
		2,3号	188 人		2,3号	2200 人	2,3号	97%						
令和4年度	203 人	1号	15 人	199 人	1号	174 人	1号	97%	204 人	383 人	75 人	人	42 人	193 人
		2,3号	188 人		2,3号	2191 人	2,3号	97%						

法人基本 運営方針	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善(A)
人権の尊重	◎基本理念 ・「人は大切に宝」 ・「人間尊重と子ども第一主義」職員・子どもの人権擁護 と虐待防止に努める	・一人一人を認め大切にした保育を行う 自分、友だち、物を大切にできる気持ちを育てる ・一人一人の人権を尊重し性別や国籍、障がいの有無によって区別することのない保育を行う ・権利擁護の実践、職員の人権尊重教育、個人情報保護を徹底するため、権利擁護の研修を全職員が年間1回受講する（5月） ・虐待防止と早期発見に努める ・苦情受付、相談体制の整備を行う	・「にこここ園職員としての心構え」に性別、国籍等で対応を変えないといった一文を追加し職員に伝える ・神戸真正塾上杉徹先生による「権利擁護」について研修を行う（2/18）（令和5年度新採用職員も受ける） ・子どもが自己肯定感が持てる言葉がけの園内研修（9/8） ・虐待マニュアルの見直し（12/9） ・虐待防止研修（12/8） ・職員の心得確認（職員会議毎）	・年度初めに職員会議で伝えたが中途採用者に伝えることができていないところがあった ・神戸真正塾 上杉徹先生による「権利擁護」についての研修に参加し保育を見直し実践に繋げることができた ・「自己肯定感が持てる言葉がけ」の研修をすることで日々の言葉がけを見直し実践に繋げることができた ・虐待サイン発見のチェックリストを用いて全園児チェックし、早期発見に努められた ・虐待防止研修を通して子どもとの関わり方などを考え直す機会になった	・中途採用者にも「にこここ園職員としての心構え」を伝える機会を作る ・人権擁護に関する研修を続けて行うことで職員の意識を高められるようにする ・子どもの自己肯定感を育て高められるよう園内研修を定期的に行う ・日々の虐待チェック行いながら、学期ごとにはチェックリストを用いた虐待チェックを行い虐待の予防、早期発見に努める ・職員間で子どもに対する関わり方について気になる時は互いに声をかけたり相談できる体制を継続する
	・保護者支援 ・保育の質の向上	・園長、主幹保育教諭は保護者に寄り添い連携し些細な悩みにも対応し安心して子育てができるよう支援する ・アンケート（年2回）、ご意見箱設置により保護者の意見を園運営に反映させると共に保育の質の向上に努める ・第三者評価受審	・クラス担任と連携をとり、気になる子の情報を共有する ・アンケートを行う（さくらdaysにて配信） ・ご意見箱を設置する（常時）	・アンケートの回収率は199名中148名の回答で74%であった ・全体的には満足しているとの意見が多かったが、自由記述欄に少数人数ではあるが意見や要望があった	・クラス担任と連携を取り、気になる子どもや保護者には声をかけているが、全家庭に対して、登降園の時間を利用する等、短時間でも話ができるよう積極的に声をかける必要がある。 ・さくらdaysで配信すると家庭数での配信ではなくなるので回収率に誤差があるため次年度どうするか考え直す必要がある ・第三者評価は令和5年度に受審する
地域との共生	・子育て支援 ・学校、関係機関との連携 ・地域との関わり	・地域の親子を対象に園庭開放 ・一時保育の受け入れ ・待機児解消に努める ・小学校、中学校との連携と交流 ・いぶき明生支援学校の就職体験受け入れ等の連携と交流 ・実習生、ボランティアの受け入れ ・区役所、警察署、消防署との連携 ・井吹西ふれあいのまちづくり協議会主任児童委員、老人会との交流 ・地域の方々、明生支援学校と一緒に公園清掃 ・高齢者施設との交流（年間3回） ・「にこここ喫茶」の開催	・園庭開放を行う ・トライやる受け入れ（11月9名） ・ワークキャンプ受け入れ（コロナ感染拡大により中止） ・実習生の受け入れ 常盤大学 5月2名 神戸海星女子学院 5月・2月各1名 神戸元町こども専門 7月5名 11月1名 神戸女子大学 8月・12月 各1名 関西学院大学 9月・12月 各1名 ・5歳児が井吹西青少年育成協議会と井吹台西公園清掃 ・地域子育て事業を積極的に行う ・週1回（木曜日）に「にこここ喫茶」を開催する ・KOBES元気シニアポイントによるボランティア受け入れ（1名）	・園見学や園庭開放を積極的に行い、一時保育や子育て応援事業などに声をかけてつながれた ・一時保育は上半期は問い合わせがなかったが後半は積極的に受け入れることができた ・トライやる、実習生の受け入れを行った ・避難訓練の際に警察署と連携を取り訓練を行う ・青年育成協議会との清掃活動はできたが、コロナによりいぶき明生支援学校とは交流はできなかった ・コロナにより高齢者施設との交流はできなかった ・「にこここ喫茶」少しずつ地域の方も増えてきている ・シニアボランティアに来てもらい清掃などをしてもらうことで他の業務に専念できた	・今後も園見学等を積極的に行い他の事業に繋がるようにしていく ・一時保育の受け入れを積極的に行う ・実習生やボランティアを積極的に受け入れ採用等に繋げていく ・コロナにより小学校、中学校、支援学校との交流がなかなかできていないので次年度はできるようにする ・子育て応援事業はコロナにより参加率が下がっていたが少しずつ増えてきているので次年度も地域にポスターなどを掲示し参加してもらえるようにする ・「にこここ喫茶」に来てもらえるように地域にポスティングする ・KOBES元気シニアポイントによるボランティアを引き続き受け入れていく
	・職員の質の向上 ・人材確保	・権利擁護、危機管理意識を高める ・保育環境、保育内容の充実をはかる ・スキルアップのためのキャリアアップ研修の受講 ・養成校との連携、交流を図ると共に、実習生への働きかけを強化し人材確保に努める	・園内研修「子どもへの言葉がけ」（9月） ・園内研修を積極的に取り入れる（年6回） ・キャリアアップ研修、公私合同研修に参加する 主幹保育教諭が新任職員と話す機会を作る（年3回） ・養成校への訪問（神戸常盤大学、姫路ハーベスト医療福祉専門学校） ・就職フェアへの参加	・「子どもへの言葉がけ」研修を通して日々の保育、子どもへの言葉がけを見直し実践に繋げることができた ・研修に積極的に参加することで質の向上に努められた ・就職フェアから採用に繋げることができた	・9月に「子どもへの言葉がけ」研修を行ったがもう少し早い時期にできる方がより実践につなげることができた ・園外での研修も増えてきているので積極的に参加し、園に持ち帰り他の職員と共有できるようにしていく ・ホームページ、SNS等を充実させてより人材確保に繋がれるようにする